

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871200154
法人名	有限会社 ウイズ・ケイ
事業所名	グループホーム あんど
所在地	愛媛県西条市桑村456番地
自己評価作成日	平成22年8月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年9月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人の人間として接し、喜怒哀楽が出せるように、又、いろいろな役割を持ち普通の生活ができるよう支援している。
いろいろな事にチャレンジして、生き生きした表情で過ごせるように。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

気候や天気の良い時には「あんど公園」で、昼食やおやつを楽しむこともあり、通りがりの近所の方が声をかけてくださることもある。地域の秋祭りには「あんど公園」を神輿の休憩場所として提供され、利用者が「樽神輿」を担いだり、獅子舞を見物して楽しめる。事業所で行う「バーベキュー大会」で、利用者がフラダンスを披露された際には、ご本人の姿を見てご家族も喜ばれたようだ。小学生の訪問があり、劇や楽器演奏を見せてくれたり、中学校の運動会の応援に出かけておられる。

事業所では「ご本人とご家族との絆」を大切にされており、ご家族にも外出や行事等への参加を呼びかけておられ、利用者がご家族と一緒に楽しい時間を過ごせるような機会を作っておられる。又、「お墓参りがしたい」と希望される利用者の思いをご家族に伝えて、ご家族が付き添ってお参りされたり、受診へ行った帰りにご家族とご自宅へ立ち寄って帰る方もいる。又、ご家族と温泉へ行き、外食して帰る方もいる。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム あんど

(ユニット名) わらべ村

記入者(管理者)

氏名 楠橋 昌美

評価完了日 22年8月5日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「共耕共遊の里」を理念にしており、生きがいのある人生を一緒に過ごすことを目指している。理念は、玄関前の掲示板に掲示し、地域の方々にも理解してもらえるようにしている。ミーティング等で、理念に基づいて自分達の介護について見直しもしている。	
			(外部評価) 事業所では「共耕共遊の里」を理念として掲げて「共に生活を築き、生きがいのある人生を一緒に過ごす」と理念を分かりやすく示し、玄関前の掲示板に貼っておられ、来訪者にも見ていただけるようにされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 中学校の福祉体験の講義や、実習の受け入れをしている。運動会にも参加させてもらったり、小学生が来訪し、歌や演劇を披露して下さった。又、地域のフラダンスグループの方々に指導してもらい、バーベキュー大会にて皆さんに披露している。	
			(外部評価) 気候や天気の良い時には「あんど公園」で、昼食やおやつを楽しむこともあり、通りがかりの近所の方が声をかけてくださることもある。地域の秋祭りには「あんど公園」を神輿の休憩場所として提供され、利用者が「樽神輿」を担いだり、獅子舞を見物して楽しめる。事業所で行う「バーベキュー大会」で、利用者がフラダンスを披露された際には、ご本人の姿を見てご家族も喜ばれたようだ。小学生の訪問があり、劇や楽器演奏を見せてくれたり、中学校の運動会の応援に出かけておられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の在宅介護者家族の会にて、代表者が「高齢者の水分補給と脱水」について講義をしている。又、明德短期大学で「認知症の理解」の授業を受け持っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、自己評価の内容や外部評価の結果について報告している。又、明德短大の教授に「生活支援のためのリハビリ・プログラム」について講義をもらった。消防署員や地域の消防団を招いて、グループホームの火災についても皆で考えた。	
			(外部評価) 地域の方やご家族の参加しやすさに考慮して、現在、会議は、奇数月の第4水曜日の19時からと決めておられ、利用者が生活されておられる居間で行っておられる。事業所の現況報告を行われたり、「認知症の人の思い」を事例を挙げ紹介しながら勉強会を行い、参加者に認知症についての理解を深めていただいた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 月に一度介護相談員が来訪して下さり、いろいろアドバイスをいただいている。又、何か分からないことがあれば、市担当者にメールをしたり、直接出向いて尋ねている。	
			(外部評価) 市の担当者とは、日常的にメールでやり取りされており、資格取得等についても市の担当者の方が調べて返事をしてくださったようだ。市の担当者の方は、19時からの運営推進会議にも参加して下さっている。会議では「利用者の状況・状態等の報告があれば、よりホームのことが分かる」と意見をいただき、事業所では「年度初めあるいは半年ごとに現況報告を行っていきたい」と話しておられた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束については勉強会をしており、全職員が理解をしている。玄関やデッキの出入り口には施錠はしておらず、入居者の状態をよく観察し、声掛けや見守りをしている。	
			(外部評価) 身体拘束の勉強会を年2回程度、事業所内で計画を立てて行っておられる。玄関やユニット間のドアに鍵はかけず自由に行き来できるようになっていた。家族会を年に4回開催されており、現在、落ち着かれない利用者がおられることから、夕方以降や食事前30分は、面会は控えていただけようお願いをされた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待については勉強会をしており、お互いに言葉使い等、自分では気がつかないことに関して、声を掛け合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) この一年で、学ぶ機会は設けておらず、一部の職員しか理解できていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書や重要事項説明書については、時間を十分とって丁寧に説明しており、納得したうえで同意をもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会で出た意見や悩みは皆で話し合っており、いろいろな意見が出ている。来訪された時には、状態を説明しており、月に一度手紙でも状態が分かるようにしている。 (外部評価) 家族会は、行事と合わせて開催されたり、認知症の勉強会をされている。毎月の手紙でご本人の様子等の情報提供を行い、季刊発行の「あんどだより」では、行事の様子等を知らせておられる。家族会への参加が難しいご家族の方には議事録を送付されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 自分達の意見、思いを出せるような雰囲気をつくり、こちらの意見を押しつけないようにしている。毎朝のミーティングやりいろいろな場面で職員の意見を聞き、話し合っており、何でも「やってみる」を大切にしている。	
			(外部評価) 職員は、毎朝のミーティング時や日々の中で、意見や要望等を出し合い相談しながら決めるようにされている。段々と食事が摂れなくなってきた利用者の方についても、職員からの気付きや意見を連絡ノート等にも書き留めて話し合い、おにぎりや酢飯、刻み、ミキサー食、味付け等、ご本人の好み等も踏まえながら工夫して支援されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格取得には全面的に協力しており、資格手当も支給している。努力、実績等により各ユニットごとに主任を専任した。又、職員の苦労やストレス、悩みがないかよく観察し、疲労が蓄積しないような勤務表を作成している。	
			(外部評価) 事業所内では年に一度救急法の研修を行っており、急変があった時に対応できるよう勉強している。外部の研修には参加できていない。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 連絡協議会や研修の際にて、他の施設職員と意見交換はしているが、まだまだ地域の同業者との交流は少ない。	
			(外部評価) 連絡協議会や研修の際にて、他の施設職員と意見交換はしているが、まだまだ地域の同業者との交流は少ない。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 連絡協議会や研修の際にて、他の施設職員と意見交換はしているが、まだまだ地域の同業者との交流は少ない。	
			(外部評価) 連絡協議会や研修の際にて、他の施設職員と意見交換はしているが、まだまだ地域の同業者との交流は少ない。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接を行い、ご家族や本人の状況を把握し、本人が安心できるよう体験を行ってもらっている。他の入居者達とも馴染むことができ、本人が少しでも受け入れてくれるような関係ができれば、と思っている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談や申し込みに来られた時に困っている事や家族の思いをよく聴き、受けとめ、助言を行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族にとってどうすることが一番望ましいか話し合っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 介護する、されるではなく、共に支えあい、寄り添って生活している。又、いろいろな場面で喜怒哀楽を出せるよう支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 外出の際、家族も一緒に出かけたり、いろいろな行事に参加してもらえるようにしている。又、毎月一回、本人の様子や思いを手紙に書いて送っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 昔から利用している美容院、理髪店に行かれている方や、同級生が訪ねて下さり楽しそうに話をされている方はいる。又、年賀状、暑中見舞い、手紙など知人に書かれている。 (外部評価) 事業所では「ご本人とご家族との絆」を大切にされており、ご家族にも外出や行事等への参加を呼びかけておられ、利用者がご家族と一緒に楽しい時間を過ごせるような機会を作っておられる。又、「お墓参りがしたい」と希望される利用者の思いをご家族に伝えて、ご家族が付き添ってお参りされたり、受診へ行った帰りにご家族とご自宅へ立ち寄って帰る方もいる。又、ご家族と温泉へ行き、外食して帰る方もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が間に入り、孤立しないよう配慮しお互いに助け合える関係をつくっているが、本人の意思も尊重している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 年賀状をくださる方はいるが、殆ど関係はとぎれている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中で、本人の本当の思い、希望を把握するよう努めており、それを口頭や手紙にて家族に伝えたりしている。それにより、家族から電話があったり、頻繁にハガキを下さる方がいる。 (外部評価) 利用者同士が話しておられることの中から「ご本人の本当の思いや希望」を知ること多いようである。職員は、日々の介護記録に、会話の内容や職員の気付きを書き留め、利用者個々の思いの把握に努めておられる。	利用者個々から得た情報を見やすく整理される等、利用者一人ひとりの特徴や傾向等も活かして「生きがいのある人生」を支える介護計画につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族が来られた時にさりげなく聞いたり、日々の暮らしの中で本人に尋ねたりしているが、細かい情報は得られていない。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) できる、できないシート、分かる、分からないシートを作成しており、それぞれに把握している。又、毎朝のミーティングで話し合っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			家族の来訪時に状態を説明し、家族の希望や意見を聞いており、本人にとってどうすることが一番望ましいのか考え、話し合っている。又、日々の暮らしの中で、本人の本当の思いを知るようにしている。遠方の方には、電話や手紙にて希望を聞いている。	
			(外部評価)	
			ご家族の来訪時に日々の様子を伝えて、ケア等についての要望をうかがうようにされている。介護計画は3ヶ月毎に見直しされ、状態に変化があった場合は、そのつど見直しておられる。	管理者は「利用者個別の特長を生かした計画を立て、目標が達成できるよう取り組みたい」と話しておられた。利用者ご本人の特長についてできることできそうなこと等もアセスメントされて、ご家族とも話し合いながらご本人らしい暮らしを支援していかれてほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			個別記録には、日々の様子や状態、それに対する対応がよく分かるよう詳しく書くようにしている。又、毎朝のミーティングで話し合い、全職員が共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			本人や家族の状況、希望により病院への送迎や受診など支援は行っている。又、その都度話し合い、臨機応変に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地域のフラダンスのサークルの方々にフラダンスを教えてもらったり、ボランティアで髪のカットに来てもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 往診時、希望により家族と医師が直接話ができるよう にもしている。かかりつけ医の受診には、家族と共に 付き添ったり、職員だけが対応することもある。その 際は、すぐに結果を家族に報告している。	
			(外部評価) 協力医療機関の医師が2週間に1度往診に来てくれるよ うになっている。その他、気になる状態の時は、協力 医療機関の看護師が24時間対応してくれるようになって いる。受診時は、職員が送迎されたり、診察が長時 間になる時は、ご家族の協力をお願いすることもある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 何か状態に変化があれば、すぐに提携医療機関の看護 師に連絡をし、24時間いつでも対応してもらってい る。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、本人の状態を詳しく口頭と文書で説明し ている。頻繁に見舞うようにし、家族や医療機関と情 報を交換している。又、本人とも関係が途切れないよ うにしている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナル期、看取りの事例もあり、その都度、家 族、本人、医師、事業所で話し合い、対応している。 本人の居室に家族が泊まれ、協力、連携も取れている。	
			(外部評価) 入居時に、重度化した場合の事業所の方針を説明され ている。事業所は、看取りを支援した経験もあり、医 療機関と連携しながら事業所で最期まで過ごされた方 や「最期までホームで」と言われていた方が、痛みの 緩和のため入院されたこともあり、ご本人の状態に応 じて、ご家族、事業所、医療機関、それぞれの役割で 連携しながら利用者個々を支援していただける。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年に一回消防署の救急訓練を実施している。夜間時の対応などシュミレーションをして勉強会もしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練は年2回実施しており、施設内でも非難訓練をしている。地域の消防団や近隣の方に協力をお願いしている。連絡網も作成しているが、夜間訓練があまりできておらず、今後は夜間を想定した訓練をしていきたい。 (外部評価) 消防署の協力を得て、利用者と職員全員が参加して消火・通報・避難訓練を行われた。地域の消防団の方も、緊急連絡先として登録されており、災害時は、駆け付けてくれるようになってきている。スプリンクラーは22年度中に設置することを予定されていた。	職員の連絡網を実際に回してみたり、11月には、夜間想定訓練を計画されているが、その他にも地震等、いろいろな災害や場面を想定して、昼夜を問わず利用者と職員の安心と安全を確保できるような体制を具体的に築いていかれてほしい。さらに、地域の協力者等も増やしていかれてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に人として尊重した対応方法をするよう心がけている。誇りを傷つけない、自信につながるような声掛け、プライバシーにも配慮した対応をしている。 (外部評価) 管理者は「自分が言われたり、されたりして、嫌なことは、利用者に言ったり、したりしない」ように職員に日常的に伝えておられ、職員は、トイレ誘導の時、小声で声かけするよう配慮されていた。入浴やトイレ介助時に同姓の職員を希望される方には応じておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員側で決めたりせず、自分の意志で決められるような声掛け、対応をしている。言葉を発せられない方には、表情や態度を見て、自己決定できるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な一日の流れの中で、できるだけ本人の希望、一人ひとりのペースで生活できるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その時の気分で、自分が着たい服を選んでもらっている。又、季節の話や気温の話をして、適切な衣類が選ばれるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食材を見て、料理の話しながら献立を決めたりしている。又、調理の下ごしらえや盛り付け、片付けなども一緒に行い、職員も同じテーブルで楽しく食事をしている。	
			(外部評価) 食事は、事業所で利用者とともに手作りされており、旬のものを採り入れ、薄味で利用者が好まれる「甘め」に味付けされてる。魚は、事業所の代表者が市場から直接新鮮なものを買って来られる。調査訪問時には、利用者が食材の下ごしらえをされている様子がうかがえた。職員と利用者は同じテーブルで食材のこの話題でおしゃべりしながら食事をされ「おいしいから残さず全部食べるんよ」と笑顔で話してくださる利用者もあった。又、利用者同士が、早生ミカンの甘さについて感想を言いながら食べておられる様子もみられた。車椅子の方も、他の利用者の方と一緒に食後に食器拭きをされていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分摂取量、尿量などは把握しており、その方の病状も知った上で支援している。状態によっては、食事形態、調理法、量は工夫している。食べ方をよく観て、その場で形態を変えることもある。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 入居者の状態に合わせて、口腔ケアの声掛け、誘導を行い、見守り、介助を行っている。又、残差物がないよう配慮しつつチェックしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンはチェック表により把握しており、その方に合った声掛け、誘導をしている。本人の様子をよく観察し、さりげない声掛けをし、失敗した場合でも自尊心を傷つけないよう配慮している。	
			(外部評価) パットを使用されている方も、昼間は声かけや誘導等でトイレで排泄できるよう支援されている。夜間は自室にポータブルトイレを置いて使用する方も3名ある。排泄の意思表示が難しい方でも職員がご本人の「むずむず」しているような様子を捉えて、トイレに行ってみよう声をかけて支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表で便の状態は把握している。個々に合わせ、起床時に冷たい水や牛乳を飲んでもらったり、ヨーグルトやバナナ、食物繊維の多い食事を出している。又、軽い運動をレクリエーション等に取り入れている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) なるべく本人の希望に添うようにしたいが、無理な場合がある。暑い日が続いており、できるだけ汗を流してもらいたいと思っており、2日に1回は入れるよう支援している。	
			(外部評価) 入浴時は、職員とおしゃべりを楽しみながら、入浴される方もある。浴槽へ入ったり出たりしやすいようにバスボードを使ったり、浴槽の中に椅子を入れて入浴する等、浴槽で温まるのがしやすいように工夫されている。浴室の前には畳を張った長いすが設置されており、入浴後の休憩や順番を待つ時に使用されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一日の中でリズムはできており、個々の状態で居室に横になられている。又、状態に合わせて、居室や畳に横になるよう声を掛けている。日中活動することにより、皆さん夜間よく眠られている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の変更があった場合は、連絡ノート、口頭で全職員が分かるようにしている。個人別処方薬や個人記録にていつでも薬の目的や副作用が把握できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) それぞれに役割はできており、お互いに協力しあっている。又、その方に合ったいろいろなレクリエーションも考え、楽しめるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) あんど公園にて家族も一緒におやつを食べたり、一緒に外出したりされている。墓参り等行きたい場合は、家族に連絡をし、できるだけ希望に添うように支援している。又、日々の暮らしの中で、本人の行ってみたいところ等を探るようなコミュニケーションを取っている。	
			(外部評価) 季節を楽しみにお花見に出かけたり、あんど公園を散歩されたり、近くのスーパーへ職員と一緒に食材の買い物に行かれたりされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族との話し合いにより、原則的にはお金は持たれていない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話をかけたい場合は居室に電話を設置し、ゆっくり会話ができるようにしている。又、年賀状や暑中見舞いは欠かさず書かれている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共用の空間では、安全に配慮した環境設備を整え、室温（ホール、居室、浴室等）にも留意している。夏場には簾を設置したり、季節感を味わえるようデッキに自由に出れるようにしている。又、季節感のある壁面飾りも一緒に作成している。常に生活の音、臭いはしている。</p> <p>(外部評価) 両ユニットの居間から戸を開けるとデッキに出られるようになっており、2匹の犬を飼っておられる。利用者が、中から犬の姿を見て名前を呼んでおられた。お天気の良い日には布団を干したり、外でお茶を楽しまれている。利用者がやぶる日めくりカレンダーで作った折鶴が飾られていた。壁面には、利用者とともに紙で作ったコスモスの花が飾られていた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ホールにて仲良く話しをしたり、廊下端の畳ベンチでゆっくり過ごされている方もいる。又、自由に居室に戻りテレビを観られている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 以前から使っていた椅子やタンスを持ってこられている方もいるが、殆どの方は、使い慣れた家具の持ち込みは少ない。しかし、今の居室が住み慣れた状態であり、居心地良くすごりされている。</p> <p>(外部評価) テレビや籐のいすを持ち込まれている方もいる。ご家族の写真やご家族の連絡先を書いたメモを置いている方もあった。好みの化粧品を並べ使っている方や、個人で新聞を購読されている方もいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 一人ひとり「できること、できないこと」シートを作成しており、ミーティングでも話し合い、職員は状態を把握している。その中で、少しでも自立した生活ができるよう声掛け、対応をして自信につながるようにしている。</p>	